

Cisco Intersight クラウドベース管理による適応型コンピューティングへの移行



普遍的なシンプルさ

- GUI または API を使用して、開発チームのニーズを満たします。
- 設置場所に関わらずインフラストラクチャを管理できるため、ユーザ エクスペリエンスをシンプル化します。



実用的なインテリジェンス

- ベストプラクティスを使用して、迅速かつ能動的な運用を可能にします。
- 実用的な洞察力を手に入れて、継続的な改善と問題回避を実現します。



迅速な提供

- 新しい要求に迅速に対応し、予測不能なものを管理します。
- データセンター内の仮想マシン導入に匹敵する速さで、エッジ クラスタを導入します。

運用および開発上の要求に対応するには、クラウドと同じような能力を備えた適応型インフラストラクチャが必要です。

Cisco Intersight™ は、システム インフラの場所に関わらず、中心となるデータセンター、ネットワーク先のエッジ環境、リモートおよび分散拠点すべてのインフラストラクチャにクラウドベースの管理機能を提供します。これらすべての場所に特有の管理上の課題が存在し、一般的に別個のツールが必要とされています。Cisco Intersight サービスは、Cisco Unified Computing System™ (Cisco UCS®) および Cisco HyperFlex™ システムの優れた管理性を統合・シンプル化します。

Cisco Intersight は、高度な機能と継続的な改善を可能にする、新たなレベルのクラウド活用インテリジェンスを提供します。Cisco® テクニカル アシスタンス センター (TAC) のサポートおよび Cisco UCS コミュニティとの緊密な統合により、専門知識と情報がシームレスに提供されます。修復と問題解決が迅速かつ能動的に提供されます。

DevOps 向けの設計

シスコは、ソフトウェア定義型のシステムを提供することで、日常業務を自動化する管理ソリューションについて、強力な実績を持っています。Cisco Intersight のクラウドベース管理は、シスコの戦略の自然な進化の一環として生まれました。シスコは、要素管理がネットワーク ファブリックに統合され、全てがプログラム可能なステートレス コンピューティング プラットフォームとして、Cisco UCS を設計しました。Cisco UCS 管理は、直感的な GUI、Cisco UCS PowerTool および Python などの言語に適応した統一 API、シスコ製およびサードパーティ製双方のツールとの統合をサポートしています。Cisco UCS Director が水準を進化させ、ワークフローを伴った Infrastructure as a Service (IaaS) をもたらして、インフラストラクチャの自動化とオーケストレーションを実現します。

Cisco Intersight とそれに接続されたシステムは、API を通じて DevOps に対応します。運営チームと開発チームのユーザは、利用個人向けにカスタマイズ設計されたポータルを通じて Cisco Intersight 管理にアクセスすることができます。Cisco Intersight を使用することで、システムのライフサイクルに応じた作業を簡略化し、継続的にアプリケーション サービスの提供スピードを上げることができます。

Cisco Intersight クラウドベース管理の概要

Cisco Intersight は、インテント (何をしたいかという目的) ベースの適応型インフラストラクチャを可能にする Management as a Service (MaaS) を提供します。Cisco Meraki™ プラットフォームによって優れたクラウドベースのネットワーク管理が提供されるのと同じように、Cisco Intersight は、デバイス志向のツールでは実現し得なかった方法による環境の分析・シンプル化・自動化を可能にする、優れた管理モデルを提供します。クラウドベースの管理は、リモート、エッジ、および分散拠点環境において、実績を上げています。Cisco Intersight 管理サービスは、エンタープライズ データセンター、コロケーション、および分散コンピューティング環境に対応可能です。

クラウドベースの管理

Cisco Intersight MaaS は、インテントに基づいたシステム設定、継続的管理、能動的な最適化を支援します。このクラウドベースでサブスクリプションモデルソリューションを活用すれば、ユーザーインターフェイスで管理対象のサーバを登録、サービスのライセンスを取得し、サーバを論理グループ (分散拠点などの場所、または仮想化クラスターなど) に分け、ロールベースおよびポリシーベースのインターフェイスを使用するだけで、インフラストラクチャを場所を問わずに設定および管理することができます。

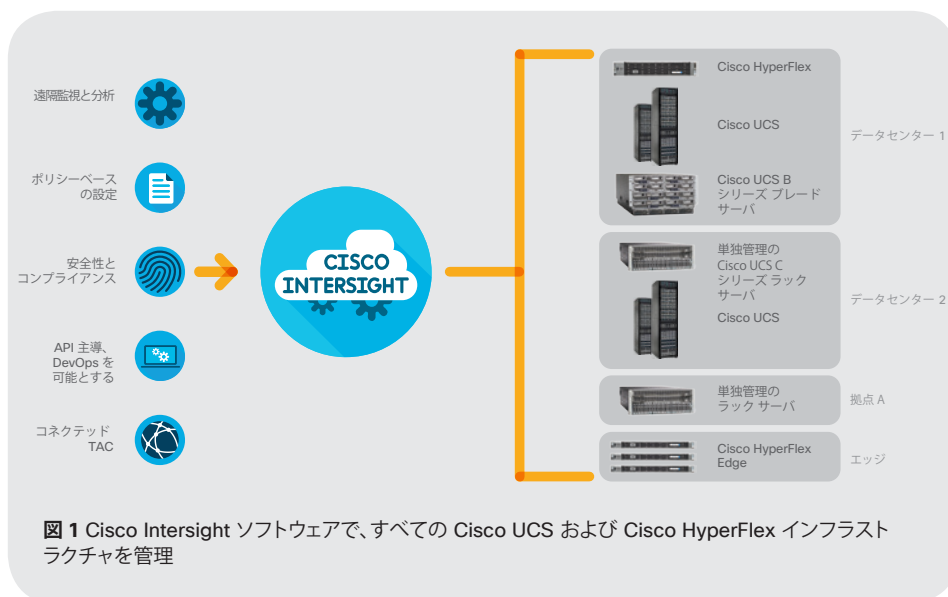
Cisco Intersight サービスはクラウドでホストされているため、ユーザは管理ソフトウェアのバージョンやアップグレードを気にかける必要はなく、シスコが継続的にアップデートを提供することが可

能です。Cisco Intersight の管理はシームレスな拡張が可能なので、稼働を中断することなく、組織に最適な方法で実装することができます。ユーザは、監視および図 1 の左側に示されている機能を活用できます。Cisco Intersight サービスは、特定のデバイスの管理方法に適応したデバイス コネクタを介して、インテントを具現化します。

シスコは、Cisco TAC とサービス統合することで、実績・情報に基づいた洞察力を獲得し、より能動的なサポートを提供します。この統合により、サービスリクエストの開始が容易になり、シスコ製品へのフィードバックをより直接的に提供できるようになります。また、TAC とのこのような緊密な統合によって、サービス範囲が広がり、シスコの継続的供給力も強化され、修正と今後の開発がさらに加速します。

ダッシュボードを超越した機能

Cisco Intersight では、Base エディションと Essentials エディションの両方に、カスタマイズ可能なダッシュボードが含まれています。ダッシュボードは、すべての機器のステータスを表示し、構成情報を提供して、すべての物理および論理コンポーネントの場所と使用状況を知らせます。健全性のステータス情報と統計を迅速に提供できます。推奨エンジンは、アラートと、わかりやすい修正指示を提供します。また、容量および使用率情報から将来のための計画を支援することもできます。



主な機能

管理のシンプル化を支援し、ソフトウェア開発と迅速なアプリケーション導入のインフラストラクチャの対応を支援する、3つの主な機能を提供します。



クラウドベースの管理

MaaSにより、操作を阻害しない頻繁な更新も可能なグローバル管理が実現します。



能動的なガイダンス

推奨エンジンによって通知、洞察、実用的なインテリジェンスが提供されるので、日常業務が容易になります。



セキュリティと拡張性

このサービスは、サードパーティとの統合のための拡張可能なアーキテクチャを備えたセキュアな接続およびデータアクセスを目的として、設計されています。

このアプローチにより、インフラストラクチャとそのステータスに関するグローバルな視点が得られます。実際の問題に発展する前に状況を能動的に認識することに役立ちます。コンポーネントだけでなく、論理的な構成(たとえば、Cisco HyperFlex™ クラスタ内のノードの集まり、またはデータベース サーバとしてタグ付けされたサーバなど)が表示されます。任意の個々のコンポーネントに絞り込んで、その物理構成、ファームウェア リビジョン、ディスクドライブなどのコンポーネントの使用状況を確認することができます。

ダッシュボードと詳細なステータス画面を利用すれば、世界中どこにありとも、すべてのインフラストラクチャを追跡することが可能です。想像してみてください。資本設備の管理に使用する構成情報リストを簡単にエクスポートでき、監査証跡を活用して業界および政府の規制へのコンプライアンス維持に役立てることができるのです。

インフラストラクチャの設定と管理

ユーザ インターフェイスを通じて機器の登録とライセンス取得を完了すれば、インフラストラクチャを設定および管理するための強力なツールが得られます。データセンターと末端環境の変化のペースが速くなる中、DevOps チームがスクリプトベースでインフラストラクチャの管理も含めたいと思っていることを、シスコは理解しています。これは容易に実現できます。なぜなら、Cisco Intersight の管理では、最適な任意の方法で業務を運営するための自動化を Python および Microsoft PowerShell スクリプトにより簡単に実行できる API が提供されているからです。

クラウドからのインストール

Cisco Intersight インストーラは、どんな場所にあるインフラストラクチャでも、迅速かつ容易にインストールします。たとえば、Cisco HyperFlex クラウド インストーラは、中央データセンター内のベアメタルあるいは一連の遠隔地での Cisco HyperFlex Edge 構成からクラスタを構成することができます。

インテントベースの設定と管理

Cisco UCS Manager は、サーバの ID、設定、接続のあらゆる側面を統合する Cisco UCS サービス プロファイルの使用を、他に先駆けて開始しました。サービス プロファイルとテンプレートによってサーバのプロビジョニングが自動化されるので、サーバは常に、定義されているポリシーに整合した設定を維持します。これらを利用したプロビジョニングは高速かつ反復可能なので、100 台のサーバでも 1 台と同じように簡単に設定できます。このような自動化により、常にベストプラクティスに沿った運用が実施されます。これらのコンセプトは、Cisco UCS Manager API を使用して要望を実現する Cisco Intersight 管理の基礎にもなっています。

シスコのラック サーバおよびストレージ サーバをスタンドアロン システムとして使用する場合、Cisco UCS インスタンスに組み込まれていないシステムの自動化を Cisco Integrated Management Controller (IMC) への直接接続によって行うサーバ プロファイルがサポートされます。

主な機能



サポートの強化

強化された機能および Cisco TAC との統合により、業務に影響が出る前に能動的に問題に対処できるようになります。



直感的なエクスペリエンス

管理者および DevOps チームの効率が向上し、負担が減少し、生産性が向上します。

詳細情報

cisco.com/go/intersight

実行対象のサーバが Cisco UCS インスタンスに含まれているのかスタンドアロン システムであるのかに関わらず、ファームウェア アップデートの管理は、すべての設定を指定可能なサービスまたはサーバ、ファブリック、ストレージおよび関連プロファイルの一部として、Cisco Intersight サービスを介して実施できます。

オペレーティング システムとハイパーバイザの導入を Cisco Intersight サービスで管理できるので、オペレーティング システムの最初のソフトウェア スタックに至るまでのすべてを、集中的かつグローバル レベルで管理できます。

影響が及ぶ前の問題予測

クラウドベースの管理サービスには、問題の事前予測に役立つ能動的な推奨エンジンが含まれています。このエンジンは、構成情報および障害情報を含め、インフラストラクチャからデータを収集します。この情報を接続システム一式と関連付けて、出現の可能性のある傾向を割り出します。たとえば、特定のシリアル番号範囲でディスク障害の急増が見られた場合、推奨エンジンによって、障害が現れる前に能動的に交換を開始することができます。Cisco Intersight サービスは Cisco TAC および Cisco UCS コミュニティと緊密に統合されているので、専門知識や情報がスムーズに伝わります。

すべてのシスコ インフラストラクチャに導入

Cisco Intersight サービスは継続的改善モデルを使用して開発されているので、長期にわたり、新しいデバイスがサポートされ、より広範な機能が展開されます。Cisco Intersight は、Cisco UCS、Cisco HyperFlex、Cisco HyperFlex Edge システムとともに使用できます。Cisco UCS ラック サーバおよびストレージ サーバを、スタンドアロン システムとしても Cisco UCS インスタンスの一部としてもサポートします。

まとめ

Cisco UCS は、単なるサーバにとどまらず、1 つのシステムとして機能します。シスコでは、シンプルな管理と自動化で業界をリードし、業界を次世代管理機能へと導く体制が十分に整っています。

Cisco Intersight によって業務がシンプル化し、開発および運用チームの毎日の仕事がやり易くなります。Cisco Intersight は長期的に学習と進化を続けるので、常に変化に対応するために役立つ洞察力が提供され、インフラストラクチャを最適化する能力が向上します。また、俊敏性も向上するので、予測できなかったことに対しても迅速に対処できます。